

# 熱田小児科クリニック 掲示板

## 5月のテーマ

### 『溶連菌感染症について』

(医)熱田小児科クリニック「ひまわり」スタッフ



#### 溶連菌感染症の症状は？

症状の代表的なものは、**発熱**（38～39℃）と**のどの痛み**です。しかし、3歳未満ではあまり熱が上がらないと言われています。そして、体や手足に**小さくて紅い発疹**が出たり、舌にイチゴのようなつぶつぶができたりします（**イチゴ舌**）。そのほかに頭痛、腹痛、首すじのリンパ節の腫れもみられます。急性期を過ぎますと、発疹のあとには落屑（皮むけ）が認められるようになります。風邪と違って咳や鼻水が出ないということもあります。この病気には潜伏期間があり、実際に感染してからだいたい2～5日で症状が出ます。

溶連菌感染症は、繰り返しかかることもあります。大人になってもかかります。日常生活の中で出る咳やくしゃみなどによって近くの人に**感染（飛沫感染）**することがあります。また、溶連菌に汚染された食品が原因になることもあります。一人がかかったら家族、特に一緒に遊んでいる兄弟への感染に注意が必要です。

#### お薬について

お薬を飲み始めると、2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいできます。発疹が出た場合、急性期を過ぎて、手足の指先から始まる落屑（皮むけ）が認められるようになります。確実に溶連菌を退治し、重大な続発症（合併症）を引き起こさないために、症状が消えても抗菌薬はしばらく飲み続けなくてはなりません。**医師の処方通りに最後まで飲ませることが大切です。**

#### 登園や登校について

いつ頃から保育園や学校に行ってよいかは、熱が下がってから、感染のおそれなくなってから、発病後7日を経過してから、治癒してからなどと様々な意見が

あります。参考としての目安ですが、文科省の解説では「適切な抗菌薬療法開始24時間以内に感染力は失せるため、それ以降可能である」とまたは厚生省のガイドラインでも「抗菌薬内服後24～48時間経過していること。ただし治療の継続は必要」との記載があります。

さて、元気に遊べるようになると、お子さんもお子さんご家族ももう安心と思いがちです。でも、先ほどお話しましたように続発症(合併症)や再発の恐れがありますので、抗菌薬は医師が指示した期間中、しっかりと飲むように心がけてください。